

# 心の原風景 —我が母校—

## 佐渡市立後山小学校

後山小学校は佐渡のほぼ中央に位置し、国中平野の中心から東西にのびる畑野地区の平場西側にあります。佐渡の穀倉地帯の一翼を担い従来から米作を中心に畑作、園芸作物にも従事する家庭が多い反面、近年は部品製造工場、各種事業所などに勤務する保護者が増えています。

校区内の人々は伝統的に愛校心が強く、人柄は穏和・誠実で学校教育に対し極めて協力的です。

後山小学校に通う子どもたちは、与えられた課題にまじめに取り組むだけでなく、進んで学習課題を追求しようとする態度があります。日記を毎日続けて書くなど、当校ならではの作文を意欲的に書きます。

### 協力的な地域の方々



また、高学年は低学年の面倒をよくみています。今年度末をもって閉校し、近隣の2校とともに現

畑野小学校の校地に新しく「畑野小学校」として統合します。宮川、三宮、畠田、大久保の四集落から子ども

の通う学校として、昭和22年当時の300名以上の在校生、たつたものの、平成24年度は、47名となりました。

「高め合う子ども」を教育目標として子ども同士の学び合い、認め合い、磨き合いを大切にし、木の温もりのある広々とした校舎のもとで、子どもたちは伸び伸びとした学校生活を楽しんでいきます。

後山小学校は、「地域とともに歩む」特色のある学校として長くこの地に根付いてきました。温かく見守ってくれる地域の人々、学校教育活動に理解と協力を惜しまない保護者の皆様、そして何よりも学校が大好きな子どもたちの声が毎日響く、かけがえのない、とても素晴らしい学校です。これまでも、これからも、後山小学校がその思い出とともに、校歌とともに、一人一人の人生の中に、自らを育んだ母体として、財産として存在し続けることを心から確信しています。



真剣に耳を傾ける子どもたち

◆教育委員会学校教育課（両津支所内）  
☎23—4898

## ジオパーク、推進日記

14

### おいしいお米ができるのは？

4月に行われた佐渡トキマラソン。快走する参加ランナーたちがASでエネルギーの補充に食べていたのが「おにぎり」。おにぎりをほお張るランナーの口々から「佐渡のお米はおいしいねえ〜」という言葉が聞かれました。

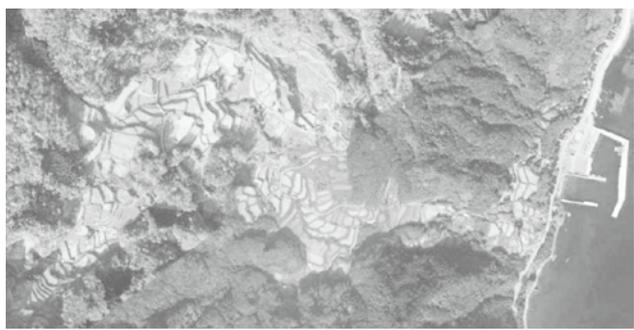
なぜ佐渡のお米はおいしいのでしょうか？トキとの共生を目指した農業の仕組みや農業に携わる方々の手間暇かけた愛情があることはもちろんですが、もっと根本的な部分を考えてみましょう。稲が育つ栄養満点の大地は、そもそもどのようなしてきたのでしょうか？

小佐渡の片野尾・月布施・野浦の前浜地域は、人の営みが育んだすこやかで美しい里を100か所選んだ「にほんの里百選」に選ばれています。今回は前浜地域に注目してみましよう。この地域を上空から見ると、海に向かって傾斜は急になり、国中側に向かって緩やかになっていることがわかります。急傾斜地には田んぼや畑が広がり、この地域に住む人々の住居は海沿いに集中しています。

このような急傾斜地では、土砂崩れなどの災害が繰り返し発生してきました。ひとたび起きれば大きな被害を出す土砂崩れですが、流された土砂の中には山の栄養がたっぷり含まれています。昔の人々は、この崩れた山の大地（傾斜）を活用して田畑をつくっていたのです。大地の災いと恵み。これもジオパークの要素のひとつです。

佐渡のお米がおいしい理由はいくつかありますが、災害などで造られた大地を上手く米作りに利用した人々の取り組みが深く関係しているのです。

◆教育委員会社会教育課 ジオパーク推進室（両津郷土博物館内）  
☎23—2101



斜面に広がる棚田